

緊急NEWS！

ナガエツルノゲイトウ県内初確認

東予地域の小河川において、特定外来生物に指定されているナガエツルノゲイトウ確認の情報提供がありました（県内初確認）。ナガエツルノゲイトウは南米原産の抽水～湿生の多年生草本で、爆発的な繁殖力から強害雑草として世界各地で問題となっています。本種は千切れた茎の切片からも繁殖可能で、草刈り機等での除草はかえって繁殖を助長させてしまう可能性があります。現在西日本から関東にかけて分布が拡大している状況で、四国内では徳島県と香川県で定着が確認されています。蔓延してしまった場合は、防除に莫大なコストが必要になることから、発生初期の迅速な対応が重要です。



河川での生育状況(2023年12月14日撮影)

Q 特徴は？

- 抽水・湿生の多年生草本
- 花期は4～12月（愛媛県）
- 種子はつけない
- 茎の切片で繁殖
- 3か月以上の乾燥でも生育可能
- 空洞のある茎は容易に折れる
- 驚異的な繁殖力と再生力

Q おもな被害は？

- ▼ 河川の水流阻害
 - 被害例-
 - ・注水口の詰まり
 - ・災害時の氾濫助長
- ▼ 農業被害
 - ・水田、畑地の強雑草
- ▼ 生態系への影響
 - ・在来植生の競合と駆逐

